

平成 21 年 10 月 13 日

各 位

会社名	株 式 会 社	原 弘 産
代表者の役職氏名	代表取締役社長	原 將 昭
	(コード番号 8894 大証第 2 部)	
問い合わせ先	専務取締役	園 田 匡 克
電話番号	0 8 3 - 2 2 9 - 8 8 9 4	

**子会社の債務免除益の発生、特別利益の発生、特別損失の発生  
及び業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、債務免除益、特別利益及び特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせいたします。また、特別利益及び特別損失の計上及び最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 4 月 17 日付で発表いたしました平成 22 年 2 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 債務免除益の発生について

当社子会社である合同会社 TSM フィフティーワンが土地・建物取得資金として 4,440 百万円の融資を受けておりましたが、融資金額以下での物件売却となったため、その差額金額及び利息の合計 446 百万円の債務免除を融資先から受けたことに伴うものです。

(1) 合同会社 TSM フィフティーワンの概要

商 号	合同会社 TSM フィフティーワン
本店所在地	東京都
代表者氏名	野坂照光
資本金	1 百万円
主な事業内容	不動産分譲事業、不動産賃貸管理事業

(2) 債務免除の内容

債務の種類	借入債務
債務の金額	4,440 百万円
借入先	投資事業会社
実施日	平成 21 年 8 月 7 日

2. 特別利益の発生について

平成 22 年 2 月期第 2 四半期会計期間（平成 21 年 6 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日）において、下記のとおり特別利益を計上する見込みです。

(連結)

固定資産売却益 801 百万円

当社が保有する風車に関する特許権を売却したことによるものです。

投資有価証券売却益 255 百万円

当社が保有する投資有価証券を売却したこと及び子会社株式に関する評価損として既に引当済みであった子会社（住吉重工業㈱）の保有する株式全てを譲渡したことによるものです。

債務免除益 446 百万円

上記 1 によるものです。

（個別）

固定資産売却益 801 百万円

当社が保有する風車に関する特許権を売却したことによるものです。

投資有価証券売却益 5 百万円

当社が保有する投資有価証券を売却したことによるものです。

上記をそれぞれ平成 22 年 2 月期の第 2 四半期会計期間において特別利益として計上する見込みとなりました。このことから、第 1 四半期以降新たに特別利益として、連結では 1,502 百万円を、個別では 807 百万円を計上する見込みであり、この結果、平成 22 年 2 月期の第 2 四半期累計期間においては連結では 6,599 百万円を、個別では 5,908 百万円を特別利益として計上する見込みとなりました。

### 3. 特別損失の発生について

平成 22 年 2 月期第 2 四半期会計期間（平成 21 年 6 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日）において、下記のとおり特別損失を計上する見込みです。

（連結）

貸倒引当金繰入額 573 百万円

住吉重工業㈱に対する貸付債権の回収不能見込額、及び同社を連結から除外したことに伴い、既に個別において引当金計上済であった金額を計上するものです。

債務保証損失引当金繰入額 1,211 百万円

住吉重工業㈱及び環境関連企業に対し当社が連帯保証を行っておりましたが、これら連帯保証先の財務内容を考慮したことによるものです。

減損損失 11 百万円

連結子会社である㈱石川再資源化研究所の収益性の低下を考慮しのれんを減損したことによるものです。

（個別）

貸倒引当金繰入額 241 百万円

住吉重工業㈱に対する貸付債権について、回収不能見込額を計上するものです。

関係会社株式売却損 214 百万円

連結子会社である Harakosan Europe B.V. の株式売却に伴う損失を計上するものです。

債務保証損失引当金繰入額 1,219 百万円

住吉重工業㈱及び環境関連企業に対し当社が連帯保証を行っておりましたが、これら連帯保証先の財務内容を考慮したことによるものです。

上記をそれぞれ平成22年2月期の第2四半期会計期間において特別損失として計上する見込みとなりました。このことから、第1四半期以降新たに特別損失として、連結では1,799百万円を、個別では1,674百万円を計上する見込みであり、この結果、平成22年2月期の第2四半期累計期間においては連結では9,779百万円を、個別では8,258百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

#### 4. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成22年2月期第2四半期連結累計期間(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,600	440	1,150	2,650	206円56銭
今回修正予想(B)	9,228	3,071	3,507	6,686	521円16銭
増減額(B-A)	1,628	2,631	2,357	4,036	-
増減率(%)	21.4	-	-	-	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	10,382	1,506	2,190	5,064	394円74銭 (注)

(注) 1株当たり当期純利益は、平成21年1月4日付けで行った1:100の株式分割を考慮しております。

(2) 平成22年2月期通期(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	27,000	1,000	300	1,500	116円92銭
今回修正予想(B)	13,100	3,920	4,440	4,590	357円78銭
増減額(B-A)	13,900	4,920	4,740	3,090	-
増減率(%)	51.5	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	20,096	3,536	5,981	9,134	712円05銭

## 5. 個別業績予想数値の修正

(1) 平成22年2月期第2四半期累計期間(平成21年3月1日～平成21年8月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	5,500	550	750	1,050	81円85銭
今回修正予想(B)	3,556	1,448	1,834	4,187	326円37銭
増減額(B-A)	1,944	898	1,084	5,237	-
増減率(%)	35.3	-	-	-	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年2月期第2四半期)	6,292	845	1,120	4,903	382円18銭 (注)

(注) 1株当たり当期純利益は、平成21年1月4日付けで行った1:100の株式分割を考慮しております。

(2) 平成22年2月期通期(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	14,000	600	950	625	48円72銭
今回修正予想(B)	6,950	1,970	2,430	1,960	152円78銭
増減額(B-A)	7,050	1,370	1,480	2,585	-
増減率(%)	50.4	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	11,852	2,882	4,398	12,403	966円83銭

## 6. 業績予想の修正の理由

(1) 連結

第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、子会社の下半期で売却を計画していたたな卸不動産の売却が完了したことから、当初予想を上回る見込みです。営業利益、経常利益につきましては、当社グループが保有するたな卸資産の時価下落に伴う評価損を売上原価に計上すること、及び不動産価格の下落に伴う分譲マンション、たな卸資産として計上していた収益物件の値引き販売等により、計画をそれぞれ大幅に下回る見込みです。当期純利益につきましては、上記3の「特別損失の発生について」において記載のとおり9,779百万円を特別損失として計上する見込みであることから、前回予想を大幅に下回り、6,686百万円の当期純損失となる見込みです。

通期連結業績予想につきましては、不動産市況低迷に伴う経営環境及び第2四半期連結累計期間において連結子会社が減少したこと、並びに上記の第2四半期連結累計期間の業績予想を考慮し、修正するものです。

(2) 個別

第2四半期累計期間の売上高については、予想以上の不動産市況の低迷により、計画どおりでのたな卸資産として計上していた物件売却が進捗せず、当初予想を下回る見込みです。営業利益、

経常利益につきましては、当社が保有するたな卸資産の時価下落に伴う評価損を売上原価に計上すること、売上高の不振及び不動産価格の下落に伴う分譲マンションの値引き販売等により、計画をそれぞれ大幅に下回る見込みです。また、当期純利益につきましては、上記3の「特別損失の発生について」において記載のとおり 8,258 百万円を特別損失として計上する見込みであることから、前回予想を大幅に下回り、4,187 百万円の当期純損失となる見込みです。

通期個別業績予想につきましては、不動産市況低迷に伴う経営環境及び上記の第2四半期累計期間の業績予想を考慮し、修正するものです。

(注) 上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

以 上